こちらの資料は、ウェブページ版の副読本の内容を表したものになります。

１ページ目は、内容ではなく、ウェブページの構成を示したサイトマップとなっております。トップページから、A「みんなの周りにいる人」、B「体験してみよう」、C「考えよう」、D「UDって何？」E「福岡にあるUDを探せ」、F「ユニバーサル都市・福岡をめざして」、事例集、リンク集、先生たちが使う活用ガイド、にそれぞれ飛ぶことができるようになっていることを示した概念図を載せております。つまり、ウェブページの構成としては、周りにいる様々な人を知って感じて考えてUDを知る、といったＡからＤまでの第１章と、福岡のＵＤを学ぶＥとＦの第２章、といった２段階の構成になっており、それに加えて、子どもたちの学習がもっとはかどるように、事例集やリンク集、先生たちが授業をする際に参考となるような活用ガイドが入ったものになっております。

２ページ目は、トップページを表したものです。一番上段に各ページへ飛べるボタンを横一列に配置しており、その下に、横に長い長方形のかたちで、タイトルスペースがあります。タイトルスペースには、福岡らしいイラストや多様な背景の人々のイラストが描いており、仮タイトルとして、「みんながやさしい、みんなにやさしい、ユニバーサル都市・福岡、おサルと学ぶウェブサイト」と文字が書いてあります。その下の左側におサルのロゴが大きく描かれており、おサルがしゃべっているようなかたちで、右側にこのサイトの説明として、「小学生のためのサイトです」ということと、現在の副読本の導入部分に書いてある「みんなでユニバーサル都市・福岡をめざしていきましょう」といったことが書いてあります。各ページにはこのように、おサルのロゴマークがしゃべっているように、吹き出しで問いかけが書いてあります。

３ページ目は、A「みんなの周りにいる人」として、子どもから高齢者、けがをしている人、子どもを連れている人、お腹の大きい人、荷物を持っている人、車いすに乗っている人、外国人、性的マイノリティの人、認知症の人、コミュニケーション障がいのある人、発達障がいのある人、自閉症の人、聴覚過敏の人、見た目では分からない人、など様々人が描かれており、そのいくつかの人にカーソルをあわせると、当事者の声が聴けるようになっています。ページの右下には次のページとして、B「体験してみよう」に行くボタンがついています。

４ページ目は、B「体験してみよう」のページの上の部分を表したものです。この中には「知らない言葉の部屋」と「音の部屋」と「車いすの部屋」が描かれており、それぞれをクリックすると、ページの下にとぶようになっています。

５ページ目は、B「体験してみよう」のページの下の部分で「知らない言葉の部屋」を表しております。ここは例えば、外国に行った際の状態を体験できるもので、①音だけ聞く、②自分の知らない外国語の看板を見る、③日本語の看板が見える、といった流れを体験できるようになっております。

６ページ目は、B「体験してみよう」のページの一番下の部分で「音の部屋」と「車いすの部屋」の２つを載せています。音の部屋では、聴覚だけでどのようなことが読み取れるかを体験できるように、色々な音が出るようになっています。また、「車いすの部屋」では、車いすの利用の仕方などが書いてあります。ページの右下には次のページとして、C「考えよう」に行くボタンがついてます。

７ページ目は、C「考えよう」ということで、子どもたちに、いろいろな人がいて、いろいろ違いがあることを考えさせるように、問いかけるページになっています。ページの右下には次のページとして、D「UDって何？」に行くボタンと、いろいろな人がいることを確認できるようにA「みんなの周りにいる人」に戻れるようなボタンがついています。

８ページ目は、D「UDって何？」ということで、ここではじめてUDという言葉が出てくるのですが、UDの定義、UDの７原則、UDがうまれた経緯、UDの種類といった４項目を掲載しているもので、ここでは、子どもたちがそのまま勉強できるようなページになっております。ページの右下にはトップページに戻れるようなボタンがついてます。

９ページ目は、E「福岡にあるUDを探せ」というウェブページの上部をあらわしたもので、福岡市をデフォルメで表したイラストが大きく描かれています。イラストの中の、ユニバーサルデザインがある場所にカーソルを合わすと、ページ下部の事例紹介へ飛ぶことが出来るようになっております。

１０ページ目は、E「福岡にあるUDを探せ」というウェブページの下部をあわらしたもので、福岡市にあるユニバーサルデザインの事例の紹介を羅列させたものになっています。

１１ページ目は、F「ユニバーサル都市・福岡をめざして」ということで、福岡市が「ユニバーサル都市・福岡」の実現に向けて取組む背景や、市長のあいさつを表したものです。

１２ページ目は、事例集として、E「福岡にあるUDを探せ」の載せられなかったUDの事例を写真やピクトグラムで紹介するページです。より多くの事例を載せたいと考えています。

１３ページ目は、先生用の活用ガイドを示したものです。何時間が適正かは分かりませんが、４時間コース、８時間コース、12時間コースといった、先生が実際に授業を行う際に参考となるようなモデルを３つほど掲載しております。それぞれのコースで、何時間目にどの単元をするとちょうどよいかを示しています。